

短い遊行であったが、初めの取り付きがおもしろい沢であった。

(記)

芦ヶ沢

一九八二年九月十五日

「タイム」 出合(一四・二五) ↓ 遊行

終了(一五・〇〇)

国道三九九号線にかかる橋から沢に入る。しばらくはガッチリ石垣とコンクリートで固められた流路溝の中を進む。三びの小滝を越えた所で、ようやく自然の流れとなった。砂防ダムを越えると五びの滝。これは出だしから調子がよい。右岸に取り付くが、途中でホールドがなくなる。あてにしていた木の枝に手が届かないのだ。仕方ないので、シュリングの先に重りがわりにカラビナをつけ、投げ上げてひっかけ、それ

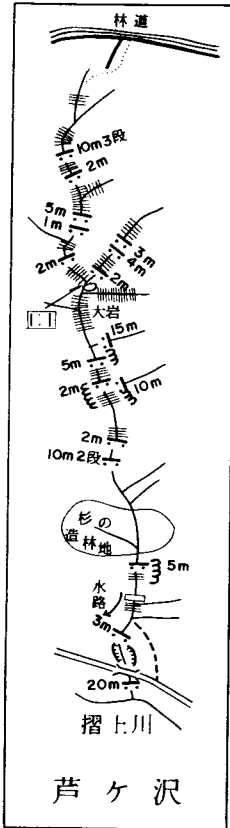
を頼りに越える。この先は明るくなり、平凡となった。

サルナシがいっぱいの実をつけている。まだ少し早いですが、部分的に熟れたものを選んで口にされる。おいしい。

一〇び二段の滝を直登すると、気持ちのよいナメが現れて、沢はまた面白くなる。快適に進んでゆくと、大岩が行手をふさぐ。自然の砂防ダムとなっていて、土砂が堆積している。ここが二俣で、昼食をとる。

右俣には小滝が連なっていて興味をひかれるが、今日の目的は左俣だ。ずっとナメが続いている。しかし、もう沢幅は狭く、快適さは望めない。

ヤブがかぶさってきた。稜線は目の前で見えている。このまま沢をためてゆくより、造林地の中をぬけてゆく方が案のように思えたので、右



芦ヶ沢

手の小尾根上にルートをとる。すぐ稜線の林道に出る。

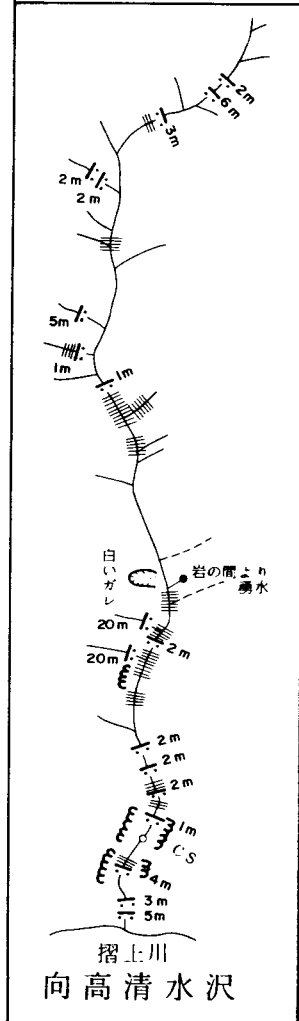
(記)

「タイム」 出合(一〇〇)

〇〇〇) ↓二俣(一一〇)

二〇〇) ~ 一一五〇)

↓終了(一二二二五)



向高清水沢(仮称)

上

一九八三年五月二八日

国道三九九号線より唐沢を下降して摺上川本流へ下る。唐沢は本流へ出る所に二〇位の階段状の滝をかけたが、この滝は最後の部分がかつた。左岸を捲いて本流に降りたつ。そこから五〇位程下ると向高清水沢(仮称)の出合である。

向高清水沢(仮称)は出だしからいきなり五位滝が連続している。こんな時はワラジをつける気分も最高である。F6まで次々と滝が現れ、一気に高度をかせぐ。水量が少ないために難易度は初級というところで、あつという間に核心部を終わる。

このあと沢は平凡となつて源流に至る。最後に小滝を二つ直登すると、もう尾根は間近であつた。

この沢は釣り人もあまり入らないらしく、魚影も濃く、山菜も豊富だつた。私の好きなオオルリ、サンコウチヨウにも会えた。近くの横枝に止まつて、「月日屋ホイホイ」と歌っている。パラダイス・フライ・キヤッチャーという英名にふさわしいサンコウチヨウのオス。しなやかな尾羽根、目の周囲の鮮やかなコバル